



地質標本館にて

つくばで輝く研究者

SHIBAHARA Akihiko 芝原 暁彦 さん(41)
地球科学可視化技術研究所 株式会社 CEO／代表研究員
古生物学者・博士(理学)

福井県生まれ。筑波大学自然科学類卒業後、同大生命環境科学研究科博士課程修了。筑波大学博士研究員、産総研特別研究員などを経て地質標本館の学芸員として勤務。2016年に産総研発ベンチャーで地球科学可視化技術研究所を設立して代表就任。福井県立大学恐竜学研究所客員教授ほか、古生物関連の著書や書籍監修、講演など多方面で活動。

高精度な三次元模型と精密プロジェクションマッピングを組み合わせ、地質情報を直感的に体験できる立体地質図を作成。全国の博物館や自治体で利用されるほか、鉄道や道路などのインフラや都市計画、防災など多方面の活用が期待されている。産総研の地質標本館で7年間にわたり学芸員として活動する中で「地質と化石の面白さを知ってもらいたい」と、自宅にあるコンピュータ制御のフライス盤で削り出した模型に映像を投影する作業に取り組んだ。「古生物学の研究で培った地質学的アプローチと趣味の

天然のビッグデータで 未来の博物館を創る

高校では野外調査部に所属し、顧問の先生から発掘の楽しさを学んだ。大学は自然科学類(現・地球学類)に進学したが、SF研

究会で特撮映画の自主制作にも没頭。現在ゲームのシナリオライターとして活躍する妻との出会いは、この研究会だった。「化石と趣味に没頭するオタクでしたが、そのおかげで出会いや発見に恵まれ、今の自分が醸成されたと思います」。

つくばの暮らし

大学入学からつくば市に住んで23年。妻と3歳の男児と3人暮らし。「恐竜先生」としての講演依頼も多く、全国を飛び回る日々。妻も執筆活動に追われるなど夫婦それぞれが忙しい毎日。「先日、パパは家にいることが少ないよねと息子に言われ、これはヤバイ!と猛省しました。家族で過ごす時間を今まで以上に大切にしています」。



息子と3D体験



講演風景

《地球の可視化》

高精度な三次元模型と精密プロジェクションマッピングを組み合わせ、地質情報を直感的に体験できる立体地質図を作成。全国の博物館や自治体で利用されるほか、鉄道や道路などのインフラや都市計画、防災など多方面の活用が期待されている。産総研の地質標本館で7年間にわたり学芸員として活動する中で「地質と化石の面白さを知ってもらいたい」と、自宅にあるコンピュータ制御のフライス盤で削り出した模型に映像を投影する作業に取り組んだ。「古生物学の研究で培った地質学的アプローチと趣味の

《化石への興味》

日本で初めて恐竜の化石が発見された1978年に福井市で生まれた。4歳の頃から化石に興味を持ち、自宅の庭を掘っては「恐竜の化石を見つけた!」と大喜び。母に見せると「それは昨日食べたアジの骨だよ」と言われたというエピソードも。小学生になると自宅から歩いて5分ほどの県立博物館(現・恐竜博物館)に毎日通い、世界中から集まった学者たちの研究成果に目を輝かせて聞き入った。